

## 百人一首を車内にも貼ってください！

1月15日付の朝日新聞の天声人語(下記別掲)に強い共感を抱きました。東洋大学が全国から募った「現代百人一首」を取り上げたものでした。こんな温かな優しい心を持った、また感受性の豊かな若者がいることにも感動しました。6万首も寄せられたのであれば、きっと本欄で紹介された以外にも感動的な句もあることでしょう。

そこで提案したいのですが、これらの句を電車やバスの車内にも掲示していただけないか、ということです。混んでいて新聞も本も読めないようなとき、目の行く先は内壁やつり革にある広告です。都内のJRの新型車両では、乗降ドアの上部に液晶テレビがあり、短いニュースや教養講座が、手持ちぶさたな車中で結構楽しませてくれます。

車内にこうした心を潤わす温かな句が貼られていれば、老若男女を問わず、どんなに心が和むことでしょうか。とはいっても、車内広告には相当な費用がかかるでしょう。そこでスポンサーが問題になりますが、これは乗り物の経営企業が大英断をしていただき、関係者の了解を取り、乗客への心の面のサービスとして無料で取り組んでいただきたいのです。現今の殺伐とした社会をも潤して力になるとも思うからです。

——上記の文面をすぐに同紙「声」欄に投稿しましたが掲載にはなりません。原稿そのものが拙劣だったか、スポンサー問題が微妙で難しいことなどの背景があったのかもしれません。でもその思いは止みがたく、このホームページで発信した次第です。

共感をいただいた方、アドバイスをいただければ幸甚です。

この国もまだいけそうだと少し安心した。東洋大学が全国から募った第21回「現代学生百人一首」である。中高生らが寄せた約6万首から100首が入選した▼〈両親の働く姿に胸打たれそつと終わらずマイ反抗期〉中3・樋口絢美。家族への思いと温かい観察眼に驚かされる。〈ほうれん草のおひたし最近水っぽい握力落ちた母の細腕〉高3・千葉幸。〈仲間とのそば打ち語る父の顔白髪頭の少年がいる〉高3・馬場史織▼柔らかな視線の先は親だけではない。〈おじいちゃんみんなの話題と違うけど私はちゃんと聞いているよ〉高3・岸友佳里。〈帰るねと言ったら急に話し出す祖母の顔見てまだいようかな〉高2・内田菜月▼〈おばあちゃんさつきも言ったよその話忍びよる影そつと肩抱く〉高3・関口亜沙実。精いっぱい愛情表現だろう。三十一文字の受け皿を得て、心底の優しさが紡ぎ出されたかのようにだ▼恋や勉強、職業訓練の歌には実感がこもる。〈大好きな君に会えるの期待して今朝もいつもの各駅停車〉高2・長谷亜也。〈片隅に積み上げていている参考書夏物語るマークのあと〉高3・野呂友里恵。〈初めての機械実習緊張の心の角を切り飛ばしている〉高1・泉田純次▼去年の猛暑は意外にも、家庭を見つめ直す作品を残した。〈エアコンで家族が集う夏の居間異常気象がもたらす絆〉高1・小玉千陽。その絆さえあれば、会わずとも思いは飛んでゆく。気持ちはずながる。〈受験費用心配しなくて良いからと父のメールに涙こらえる〉高3・小林麻未。